

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学基礎講義	21	通 期	4 単位	宮本 孝二
[講義概要・学習目標] 1 社会学の歴史と内容の概略を示した上で、現代社会を分析するための基礎概念及び特質について理解させる。 2 社会生活の基本的な場（家族、地域、組織集団）の基本的特性と現代的变化について理解させる。 3 現代社会の変動に伴って生じる多様な社会問題の現状と対策について理解させる。	[講義計画] ①社会学の歴史の概要と全体像 ②現代社会の分析；社会生活の基本的な場に見られる変動の諸トレンドと、それにかかわる諸要因、諸帰結の因果連関 ③変動の基本要因としての科学技術の諸相 ④科学技術の社会的・文化的な機能と逆機能 ⑤情報科学技術の社会的・文化的な機能と逆機能 ⑥高度産業社会における労働、職業および経営 ⑦専門職の職業的社会化と組織 ⑧家族の構造と形態の諸類型 ⑨家族の機能と逆機能（家族問題） ⑩家族の類型と機能をめぐる諸トレンド ⑪家族問題の解決と地域社会の役割 ⑫地域社会の構造と形態の諸類型 ⑬都市化と都市問題 ⑭過疎化と地域開発問題 ⑮地域社会を構成する集団・組織と地域問題 ⑯アイデンティティ問題 ⑰現代社会の不平等と差別 ⑱いじめ問題 ⑲消費生活と廃棄問題 ⑳政治的無関心と暴力 ㉑初宗教問題 ㉒檀犯罪と非行 ㉓グローバルな問題（戦争、飢餓、環境など）			
[成績評価の方法] 後期テストの結果に、出席点、小テスト、レポートなどを加味して総合的に評価する。				
[教科書] 倉橋・丸山編『社会学の視点』ミネルヴァ書房	[参考文献] その都度指示する。			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会調査	21	通 期	4 単位	清 水 由 文
[講義概要・学習目標] われわれはテレビ、新聞などのマスメディアでの調査結果やグラフを見ることにより現代社会をより明確に理解することができることを知っている。そして社会調査ではそのような資料の調査方法およびその解読方法を学習することを目的としている。さらにそのような調査結果をとおしてより精密な社会理論を構築することができる。したがって、本講義では社会調査の理論と技法を習得するというステップとそれを実際に調査票を作成して調査するという2つのステップを採用する。	[講義計画] [前期] 1. 社会調査とはなにか 2. 社会調査の展開 3. 社会調査の方法 4. 調査票の作成 5. 調査票の集計 6. ライフ・ヒストリーの調査法 7. 社会調査テスト 8. 夏休みの課題（ライフ・ヒストリーレポート作成） [後期] 1. 実習のグループ分け 2. 意識調査の問題発見と仮説の設定 3. 調査票の作成および印刷 4. 調査の実施 5. 調査票の集計 6. 調査票の分析 7. 調査報告書の作成			
[成績評価の方法] 前期試験（20%）、レポート（20%）、出席（30%）、最終報告書（30%）のよる総合評価	[参考文献]			
[教科書] 授業時に指示する				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会調査	1 1 1 2 1 3	通 期 通 期 通 期	4 単位 4 単位 4 単位	過 放
[講義概要・学習目標] テレビや新聞のニュースを見ると、社会調査のデータがしばしば発表されている。しかもパソコンの普及に伴い、その使用率はますます高まっているのが現状である。これらのデータはいったいどのように作り出されているのか。あるいはその信頼性はどのくらいあるのかと考えたことがあるだろうか。 本講義ではこれらの素朴な疑問を解答し、社会調査の意義と基本的技法について解説していきたい。そしてグループ単位で簡単な作業実習を体験することにより、社会調査の基本を身につけてもらう予定である。	[講義計画] <前期> 社会調査とは何か、社会調査と社会理論の関係など社会調査の意義と基本的な考え方を理解した上で、社会調査の基本ルール、問題意識と仮説、調査の企画と質問文の作成及び集計方法などについて勉強する。 <後期> 調査票の作成、データの収集、データの解析などについて勉強し、グループに分けて実習する。実習の成果は、冬休み前までにレポートとして提出してもらう。			
[成績評価の方法] 出席、前期レポートと後期レポートなどを総合して評価する。詳細は最初の授業にて説明する。	[参考文献] 随時提示する。			
[教科書] 未定				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会調査	1 4 1 5	通 期 通 期	4 単位 4 単位	竹 中 英 紀
[講義概要・学習目標] 新聞やテレビのニュースを見ると、「これこれの意見を持つ人が何パーセント」というふうに、しばしば社会調査の結果が報じられている。あのデータは、いったいどのようにして作り出されているのだろうか。なぜ、ごくわずかな人たちだけを対象にして、全体の傾向を推測することができるのだろうか。 社会学にとって社会調査は、データ収集の基本的な方法として位置づけられる。社会調査が正確で信頼に足るものであるためには、調査票の設計、標本抽出、調査の実施、データの集計、分析・解釈の各段階において、確立されている技法に厳密にしたがわなければならない。 この授業では、社会調査の意義と基本的な技法について解説し、あわせてグループ単位・個人単位でのかんたんな作業実習を体験してもらう予定である。	[講義計画] 原則としてテキストの内容に沿って授業を行なう。前期・後期それぞれのポイントは以下のとおりである。 (前期) ・社会調査の意義と基本的な考え方 ・問題意識と仮説（独立変数、従属変数） ・調査の企画と質問文の作成 (後期) ・サンプリングの理論と方法 ・データの整理とチェック ・単純集計とクロス集計、統計的検定			
[成績評価の方法] 筆記試験、レポートなどの結果と出席状況を総合して評価する。	[参考文献] ・大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房 ・谷岡一郎『「社会調査」のウン』文春新書 ・佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社 ・東京大学教養学部統計学教室編『人文・社会科学の統計学』東京大学出版会			
[教科書] 森岡清志編『ガイドブック社会調査』日本評論社				